

宇和島市立 南予文化会館 大ホール 照明改修



所在地：愛媛県宇和島市中央町2丁目5番1号
 大ホール面積：約1,600㎡
 客席数：1,234席
 構造・規模：鉄筋コンクリート造、地上3階建
 施主：宇和島市
 照明改修施工：東芝エリティーエンジニアリング(株)
 照明改修完成：平成24年2月

S164

リヒテルやハイドシェックら、巨匠ピアニストも来演した市立南予文化会館。
 大ホールの生演奏時に使用する音響反射板の照明にLEDを採用し、大幅な省エネ・CO₂排出量の削減を可能にしました。

演奏会の快適な音響空間を創出する音響反射板の照明を改修

愛媛県西南部に位置し、闘牛やみかんの産地で知られる宇和島市。市民に「なんぶん」の愛称で親しまれている南予文化会館は、昭和62(1987)年に旧宇和島市公会堂と旧宇和島市庁舎の跡地に開館しました。平成22(2010)年に宇和島市の運営となり「宇和島市立南予文化会館」と改称しました。施設は、2階席を可動間仕切りで閉鎖することで中ホールとしても使える大ホールと、地場産業活性化のための産業振興センターなどからなっています。

今回、大ホールの音響反射板が改修され、その照明にはLEDシアター用ダウンライトを採用し、音響効果を高めながら省エネを実現。

節電しつつ美しい音色効果を発揮するため、LEDシアター用ダウンライトを採用

舞台上での生演奏に対応するための音響反射板は天井反射板、側面反射板、正面反射板で構成されており、通常は舞台上部に格納し、使用時には電動昇降式の操作ボタンにより三体が一体に構築されます。照明は天井反射板にLEDシアター用ダウンライト6000シリーズ(調光形、消費電力100%点灯時106W)を40台(既存はハロゲン電球500W×22台、300W×18台)を採用。既存器具と比較して、明るさは100%調光時で約2倍の2,300lxを得ながら、省エネ率68%、CO₂排出量5.5tの削減に加え、照射光に紫外線がほとんど含まれていないため楽器にやさしく、美しい音色を響かせる効果を創出しています。このほか、既存とは違って色温度をそのまま維持しながら0~100%のスムーズな連続調光を可能とし、さらに20,000時間の長寿命により、ランプ交換の手間も大幅に低減しています。また、同時にホール内のボーダーライトもハロゲン電球からLEDライトに更新。省エネしながら色の再現性の向上やフィルターホルダーを使わずにフィルター装備を可能にするほか、フィルターが色抜けしにくい効果などが得られています。

調光室には手動再生方式とコンピューター制御によるメモリー再生機能をもつ調光操作卓「LICSTAR-IV TypeJ」を採用。PF80本×3段、SM20本×20ページ、1000シーンメモリーなどで構成しています。



音響反射板を構築した舞台を客席から望む



LEDシアター用ダウンライトを設置した舞台から客席を望む



舞台から更新した演出用LEDボーダーライトと客席を望む



LEDシアター用
ダウンライト



LEDボーダーライト



インテリジェント調光操作卓

主な照明器具一覧

設置場所	器具名	形名	台数	ランプ・備考
ホール内	LEDボーダーライト2000シリーズ	AL-LED-BL-D2-9-3	16	LED 消費電力:100%点灯時243W(27W×9)
	LEDシアター用ダウンライト6000シリーズ	AL-LED-ON-6	40	LED 100%点灯時106W(音響反射板に使用)
	1kW平凸レンズスポット	AL-AQS-10R-3	128	1kWハロゲン電球
	1kWフレネルレンズスポット	AL-AQF-10R-3	64	1kWハロゲン電球
	フォロースポットライト	AL-QP6-2M-3	2	1kWハロゲン電球
	アップーホリゾントライト	AL-UHQ-10-2-C	72	500Wハロゲン電球
調光室	ローアーホリゾントライト	AL-LHQ-50B-4	8	300Wハロゲン電球×64
	インテリジェント調光操作卓	LICSTAR-IV TypeJ	1	PF80本×3段、SM20本×20ページ、1000シーンメモリー、CPUデュアルランニング、ワイヤレス付
調光器盤室	インテリジェント形調光器盤	DIMSTAR-III	1	舞台用調光器3kW×19.2・6kW×18、客席用調光器2kW×28